

# メニエール病についての社内調査資料

## メニエール病とは

メニエール病は、内耳の内リンパ液の循環障害により引き起こされる症状群です。主に、突然のめまい、耳鳴り、聴力障害、耳閉感といった症状が繰り返し現れ、持続時間や程度が異なります。この症状群は、通常どちらか片方の耳にのみ影響しますが、まれに両耳に症状が現れることもあります。

## メニエール病の歴史

メニエール病は、フランスの医師プロスペル・メニエールが 1861 年に初めて報告し、彼の名前がこの疾患に付けられました。彼は、内耳の異常がめまいや聴力障害などの症状を引き起こすことを初めて提唱し、以降の研究が彼の説を裏付けることとなりました。

## メニエール病の特徴

メニエール病の特徴は以下の通りです。

### めまい

突然の強いめまいが襲ってくるのが特徴で、数分から数時間続くことがあります。これは、内耳の平衡機能障害によるものです。

### 耳鳴り

耳の中で鳴るような音が聞こえる症状で、患者さんによっては不快感を伴うことがあります。耳鳴りは、内耳の聴覚神経や内リンパ液の循環障害によって引き起こされると考えられています。

### 聴力障害

聴力が低下し、特に低音域の聞こえにくさが現れることが多いです。内耳の感音細胞の損傷や内リンパ液の循環障害が原因で、聴力低下は症状が繰り返されることで進行することがあります。

### 耳閉感

耳に圧迫感や閉塞感が生じる症状で、これは内耳の圧力変化によって引き起こされます。

## 症状の詳細

メニエール病の症状は突然現れ、患者によってその程度や持続時間が異なります。症状の発作は数時間から数日間続くことがあり、症状が治まった後も再発することがあります。症状の間隔も患者によって異なり、数週間から数ヶ月、あるいは数年の間隔で繰り返されることがあります。

症状が激しいときには、日常生活に支障をきたすこともあります。例えば、めまいが強い場合には歩行が困難になり、転倒のリスクが高まります。また、聴力障害や耳鳴りが重度になると、コミュニケーションや仕事にも影響を与えることがあります。

## メニエール病の原因

メニエール病の原因は完全には解明されていませんが、内耳の内リンパ液の循環障害が主な要因とされています。また、遺伝的要因や自己免疫疾患との関連、ストレスやアレルギー、ウイルス感染などが病気の発症や症状の悪化に関与していると考えられています。

メニエール病は、その症状や原因の多様性から、診断や治療が困難な場合もあります。しかし、症状の特徴や患者の聴力検査、内耳 CT や MRI 検査などを通じて、専門医による適切な診断が可能です。

## メニエール病の原因について

メニエール病は、内耳の障害によって引き起こされる複雑な症状を伴う疾患です。原因はまだ完全に解明されていませんが、いくつかの要因が関与していると考えられています。メニエール病の原因として考えられる内部因子、外部因子、遺伝的要因、および自己免疫疾患との関係について説明します。

### 内部因子と外部因子

内部因子とは、患者自身の体質や遺伝的要素などが関与する要因を指します。一方、外部因子とは、環境やストレス、感染症など、体の外から影響を与える要因を指します。メニエール病の原因は、これらの内部因子と外部因子が複雑に絡み合っただけで発症するとされています。内部因子には、遺伝的要素や自己免疫反応が含まれます。外部因子には、ストレス、アレルギー、感染症、頭部外傷などが関与していると考えられています。

### 遺伝的要因

メニエール病には遺伝的要因が関与している可能性があります。一部の患者には、家族歴が認められることがあります。遺伝子の研究からも、メニエール病の発症に関連する遺伝子が特定されつつありますが、その関係はまだ完全には解明されていません。遺伝的要因は、内耳の形状や機能に影響を与えることで、メニエール病の発症に寄与していると考えられています。

### 自己免疫疾患との関係

自己免疫疾患は、免疫システムが誤って自身組織を攻撃することで発症する病気です。メニエール病は、自己免疫疾患と関連があるとされています。これは、内耳が免疫システムの誤作動によって攻撃され、内リンパ液の循環障害や内耳の損傷が引き起こされるためです。メニエール病患者の中には、他の自己免疫疾患を併発しているケースもあります。

### まとめ

メニエール病の原因は、内部因子と外部因子が複雑に絡み合っただけで発症するとされています。遺伝的要因や自己免疫疾患との関係も考えられていますが、まだ完全には解明されていません。今後の研究によって、原因の特定や治療法の開発が進むことが期待されています。

現在の治療法は、症状を緩和し、日常生活の質を改善することを目的としています。これには、薬物療法、手術療法、カウンセリングや認知行動療法、運動やストレスマネジメントなどが含まれます。

原因が特定されていないため、メニエール病の完全な予防は難しいですが、健康的な生活習慣の維持や耳のケア、ストレスの適切な管理が、症状の発症や悪化を抑える役割を果たすことがあります。メニエール病患者には、適切な治療とケアが必要であり、専門医との連携が重要です。

今後、メニエール病の原因や治療法に関する研究が進展することで、より効果的な治療方法が開発されることが期待されます。また、遺伝的要因や自己免疫疾患との関連性が明らかになることで、より個別化された治療戦略が実現するかもしれません。

メニエール病患者やその家族にとって、病気に関する知識や情報の入手が重要です。最新の研究動向や治療法の進歩について情報を得ることで、適切な治療やケアにつながる可能性があります。また、団体や支援グループの活用も、患者や家族の精神的なサポートに役立ちます。

メニエール病は、その症状や進行に個人差があるため、治療やケアについては専門医の指導に従い、患者自身や家族が積極的に関与することが大切です。

メニエール病患者の生活の質を向上させるためには、症状の管理やケアにおいて柔軟で適応力のある対応が求められます。このような取り組みによって、メニエール病患者がより快適な生活を送ることができるようになることを願っています。

## イチョウ葉エキスがメニエール病に与える効果とそのメカニズム

### イチョウ葉エキスは医薬品水準

イチョウ葉エキスはドイツ、フランスでは古くから医薬品として用いられている実績のある成分です。1980年代にはドイツの医薬品の中で最も売れたとまで言われており、今でも国民薬として広く用いられています。

主な適応症は、**めまい／耳鳴り／認知症**です。

なお、薬の許認可制度の違いから日本では医薬品ではなく一般食品として扱われています。それでは海外における実際の臨床結果を見ていきましょう。

### めまいの改善率 約 79%

試験は、原因の定かでないめまいを持つ平均年齢 58 歳の 160 人の患者を対象に行われました。イチョウ葉エキス 240mg / 日を 12 週間飲用し、医師の評価によってめまいの改善率を求めたものです。

結果は、「**非常に改善**」「**かなり改善**」を合わせた**改善率が 79%**に上り、とても高い効果を示しました。※

診察も治療も簡単には行かないことの多いめまい症において、この結果は非常に価値のあるものと言えるでしょう。

※ 出典：Larysa Sokolova, et al : Treatment of Vertigo: International Journal of Otolaryngology : 2014

### 耳鳴りの改善率 約 75%

飲用量は同じく 240mg / 日、平均年齢 56 歳の男女に**半年間**飲用してもらい、耳鳴りによる不快感を THI という質問紙調査により比較しました。

結果は**軽度の耳鳴りの方で約 75%、重度の方で 54%**の改善となり、多くの方で生活の質が上がりました。※

イチョウ葉エキスは、めまい・耳鳴りの双方に高い有効性を持つことが示されたのです。

※ 出典：Cristina E.Okuyama, et al : Clinical randomized trial study of hearing aids effectiveness in association with Ginkgo biloba extract (EGb 761) on tinnitus improvement : Brazilian Journal of Otorhinolaryngology : 2019

### イチョウ葉エキスのめまい・耳鳴りへの有効率

めまい (3 ヶ月)	79%
耳鳴り (6 ヶ月)	75%

### ワイズ製薬で実施したモニター調査結果

ワイズ製薬で 1 ヶ月間モニター調査を実施した結果、耳鳴り単体に関しては思わしくありませんでしたが、めまいに関しては想定以上の結果が得られました。

これは 1 ヶ月飲用時の結果ですので、参考論文と同様 3～6 ヶ月飲用すれば、論文同様かそれ以上の実感率が期待できると考えられます。

### モニター製品 1 ヶ月飲用終了時の改善率

めまい・耳鳴り併発	55.5%
めまいのみ	56%
耳鳴りのみ	25%

## イチヨウ葉エキスがメニエール病に与えるメカニズム

メニエール病は、めまいや耳鳴り、難聴を引き起こす耳の疾患です。

その原因は完全には解明されていませんが、内耳のリンパ液の圧力や循環に問題があることが関与しているとされています。イチヨウ葉エキスは、血管拡張作用や抗酸化作用を持つ成分を含んでおり、これらの作用がメニエール病の症状を改善することが期待されています。

### 血管拡張作用

イチヨウ葉エキスに含まれるフラボノイド類が、血管を拡張させることで血流を改善します。これにより、内耳の循環が改善され、メニエール病の症状が緩和される可能性があります。

### 抗酸化作用

イチヨウ葉エキスには、抗酸化作用を持つ成分が含まれています。これにより、酸化ストレスが軽減され、内耳の炎症や細胞損傷が抑制されることが期待されます。また、抗酸化作用により、内耳のリンパ液の循環が改善されることもあります。

### 神経保護作用

イチヨウ葉エキスに含まれる成分が、神経細胞を保護する働きを持っていることが報告されています。これにより、内耳の聴覚神経や平衡神経の機能が維持され、メニエール病の症状が緩和されることが期待されます。

### 抗炎症作用

イチヨウ葉エキスには、抗炎症作用を持つ成分も含まれています。これにより、内耳の炎症が抑制され、メニエール病の症状が改善されることが期待されます。

以上のように、イチヨウ葉エキスが持つ血管拡張作用、抗酸化作用、神経保護作用、抗炎症作用が、メニエール病の症状改善に寄与するとされています。

ただし、イチヨウ葉エキスの効果は個人差がありますし、症状がすぐに改善されるわけではありません。

イチヨウ葉エキスの摂取は、他の治療法と併用して行うことが望ましいでしょう。

また、イチヨウ葉エキスはサプリメントや漢方薬として利用されていますが、使用方法や用量については、医師や薬剤師に相談することが重要です。

特に、既存の病気や服用中の薬がある場合は、イチヨウ葉エキスが他の薬と相互作用を起こす可能性もあるため、注意が必要です。